

報告

2021 年 技術士全国大会 (創立 70 周年記念) 報告

事務局 長 井 智 典

1. はじめに

2021 年の技術士全国大会は、2 年ぶりに 11 月 25 日(木)～27 日(土)の 3 日間の日程で東京にて開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大により昨年開催予定であった中部本部主催の全国大会 in 愛知は 2023 (令和 5) 年に延期され、先に周年記念大会 (5 年毎) である統括本部主催の全国大会が開催されました。9 月 30 日の緊急事態宣言解除の約 2 ヶ月後ではありましたがコロナ禍において、開催することの判断に加え、各種対策を十分に検討されつつ難しい状況の中、限られた人数ではありますが無事開催されました。日々の感染状況への臨機への対応、さぞかし苦労されたかと思います。関係者の皆さまには改めて感謝申し上げます。さて、11 月 26 日に開催された大会式典及び記念講演は、会場のみの参加でありソーシャルディスタンスに留意し定員 200 名 (例年全国から 600 名弱の参加) でしたが、北海道本部からは 20 名弱が参加しました。今回、式典・講演・交流会は会場のみでしたが、分科会や部会等関連行事において、WEB を併用したハイブリッド型での開催が行われ、アフターコロナにおける全国的行事の第一歩になったのではないかと思います。

2. 大会の概要

(1) 大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは、「2030 年 SDGs 達成に向けて技術士ができること—技術士の知恵を活かす—」でした。1 年前の 2020 年度から SDGs を仮テーマに置かれていましたので、2019 年 12 月の「SDGs 実施指針改定」を受けてのテーマ設定ではないかと

思います。

大会宣言では、技術士が 2030 年 SDGs 達成に貢献するために、多様な専門領域の技術力を統合的に発揮し、産官学が連携したプラットフォーム機能の構築及びその中核としての役割を日本技術士会が果たす必要性を訴えるとともに、国家資格を有するプロフェッションとして、技術士に課せられた役割を今一度再認識し、大会を通じて得られた知見、人脈等を活かし公益に貢献するよう、河野恭彦技術士 (原子力・放射線部門) により宣言されました。

(2) 会場

大会会場は、メイン会場を皇居横のパレスホテル東京とし、分科会が機械振興会館で開催されました。



写真-1 玄関看板とパレスホテル東京 2F 葵の間

(3) スケジュール

【11 月 25 日(木)】第 1 ～第 5 分科会／関連行事 (部会行事)

【11 月 26 日(金)】記念式典／記念講演／交流会／関連行事 (技術者倫理情報連絡会、部会行事)

【11 月 27 日(土)】関連行事 (テクニカルツアー (日帰り)、青年の集い、部会行事)

3. 全国大会

(1) 分科会

- 第1分科会：ジェンダー平等 すべての人が輝くジェンダー平等の社会へ～途切れない支援と働きかけを共に～
- 基調講演：林伴子氏(内閣府男女共同参画局長)
我が国の女性活躍の現状と課題について
 - 講演1：原田敬美氏(株)SEC 計画事務所代表)
世界のジェンダー平等と日本～世界に追いつくには～
 - 講演2：今岡春樹氏(国立大学法人奈良女子大学学長)
女子大学初の工学部設置の目指すもの
 - 講演3：岡田久美子氏(旭建設株式会社工事部アセットマネジメント部長)
ダイバーシティ経営の実践～地方の中小企業の取り組み～
- 第2分科会：防災、地域コミュニティ 暮らし続けられる街づくり
- 講演1：佐藤隆雄氏(国立研究開発法人防災科学技術研究所客員研究員)
大船渡市における差し込み型高台移転の成果と地域コミュニティ維持、および技術者として持つべき専門的知識に係る課題
 - 講演2：中嶋秀朗氏(和歌山大学工学部教授)
アバターなど技術の力を活かした未来志向のコミュニケーションの可能性
 - 講演3：田中尚人氏(熊本大学熊本創生推進機構准教授)
熊本地震からの復興における記憶の継承―「まちづくり」と言わないまちづくり―
 - 講演4：三牧浩也氏(一社柏の葉 UDCK 副センター長)
新市街地におけるコミュニティ育成とまちづくりへの参画の取り組み―柏の葉における公・民・学連携のまちづくり―
 - 講演5：大元守氏(株)テクニカルエイト統括技術部特別顧問)
最大被災都市・石巻市の防災集団移転促進事業への取り組みと地域コミュニティ存続の課題
- 第3分科会：環境・新技術―環境と成長の好循環に向けて―
- 第1部 地球環境・研究開発
- 講演1：丸山隆弘氏(経産省産業技術環境局課長補佐)
革新的環境イノベーション戦略の方針と関連政策について
 - 講演2：平野聡氏(国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所所長代理)
福島再生可能エネルギー研究所の概要と環境技術等のイノベーションハブの形成
- 第2部 新環境技術の研究開発
- 講演3：鈴木秀幸氏(株)ユーグレナバイオ燃料事業部バイオマス生産実証課課長)
微細藻類が切り開く新技術
 - 講演4：大野輝之氏(自然エネルギー財団常務理事)
エネルギー政策転換を進める共同の取り組み
- 第3部 討論会：モデレーター：小松英司氏(技術士研修委員会・明治大学環境センター)
テーマ：SDGsの目標達成や2050年の持続可能な社会に向けて
- 第4分科会：国際的通用性、技術者育成 国際的通用性と日本の技術者の育成―「コンピテンシー」一緒に考え 表現しよう―
- 基調講演1：池田駿介氏(東京工業大学名誉教授)
エンジニアの育成に向けた世界の動きと技術士制度の改革
 - 基調講演2：松下佳代氏(京都大学大学院教育学研究科教授)

日本の大学におけるコンピテンシー・ベースの教育の現状と課題

- パネルディスカッション：未来の技術者の姿とは何か？
日本の技術者の地位向上を目指して

- ・テーマ1：技術者の資質をコンピテンシーの観点から捉え直す意味について

- ・テーマ2：コンピテンシーを実装・体現するにはどうしたらよいか

- ファシリテーター：阿部修一氏(IPEJ 修習技術者支援委員会委員長)

パネリスト：池田駿介氏、松下佳代氏、日屋根均氏、横井弘文氏

- 第5分科会：資格活用 多様な連携で作る日本の未来と技術士のあり方

- 講演1：笠原弘之氏(日本工営株式会社エネルギー事業統括本部技師長、IPEJ 前副会長・資格活用委員長)

- 技術士資格活用委員会の活動報告

- 講演2：竹内将人氏(出光興産(株)、IPEJ 青年技術士交流委員会前委員長)

- 青年技術士交流委員会での活動を通して見えてきた技術士資格活用

- 参加者とのディスカッション

- 技術士の資格活用について意見を交わし、今後の課題と対策について議論する。

(2) 記念式典

式典会場は新型コロナウイルス感染予防対策により、参加者同士の距離を保って椅子のみ配置されました。式典の流れは次のとおりです。

式辞(寺井会長)→秋篠宮さまからのビデオメッセージ→来賓祝辞(末松文部科学大臣、斉藤国土交通大臣、渡海与党技術士議員連盟会長)→来賓紹介→表彰式(記念表彰)→閉会挨拶(河津副会長)。

なお、式典と交流会の司会は、高橋裕二技術士(農業・総監)と瀬尾弘美技術士(建設・総監)が務められました。

(3) 記念講演

記念講演は、学界と産業界からそれぞれご講演をいただきました。先ずは、村上周三氏(東京大学名誉教授/一般財団法人建築環境・省エネルギー機構理事長/内閣府：自治体 SDGs 推進評価・調査検討会座長)が、「SDGs 未来都市構想―経済・社会・環境の統合的取組による持続可能なまちづくり―」と題して講演されました。村上氏は、建築環境、建築設備、環境工学、流体工学、環境保全等を主な研究分野とされた都市・環境問題の第一人者であり、上記に示す内閣府の座長のほか、環境未来都市構想推進委員会(内閣府)の座長も任命されています。

講演では、「自治体と企業にとっての SDGs 一導

入の意義、目的、方法」の資料から、1. SDGs の理念と枠組み、2. 政府による SDGs の取組、3. SDGs 未来都市構想、4. SDGs と企業、5. 官民連携プラットフォームによる地域経済の活性化、について話しされました。特に話したい項番は、4 と 5 であり、SDGs 時代の企業経営は収益と社会貢献を求める公益資本主義へ向かっている。SDGs を通じた地方創生の取組が推進されており、自治体と企業の連携が極めて重要(自治体：政策課題とニーズを明確化しフィールドを提供、企業：経営戦略とシーズを発掘しノウハウを提供、両者をマッチング。)とのことでした。



写真-2 記念講演① 村上周三氏

続いて、角和夫氏(阪急阪神ホールディングス代表取締役会長グループ CEO)より、「サステナブルな社会の実現に向けて」と題した講演がありました。



写真-3 記念講演② 角和夫氏

角氏は、阪急電鉄入社後 2003 年に代表取締役社長となり、2006 年の阪急と阪神の経営統合後に阪急阪神ホールディングス代表取締役社長に就任され 2017 年から現職となられています。講演では、阪急電鉄創業者である小林一三氏のビジネスモデルから「安全・安心な暮らしを提供するまちづくり」、「良質な教育を受けることができるまちづくり」、「文化の香りがするまちづくり」を重視した事業の継続を

紹介され、SDGs の精神につながる活動とのことでした。また、グループが目指す企業価値＝従業員のパワーの総和、従業員のパワー＝従業員個人のスキル×チームワーク×モチベーションであることを紹介され、従業員満足度が高ければ、自ずと良いサービスが生まれ、顧客に喜ばれ、利益が生み出され、株主に還元できるという好循環を生むとのことでした。その他、現在の取組である SDGs トレイン「未来のゆめ・まち号」の運行などを紹介されました。

(4) 交流会

交流会は、新型コロナウイルス感染予防対策として、来賓祝辞や名刺交換等の交流の場と、食事会場を分けて開催されました。最初に交流会が開催され、会長挨拶に続き、来賓の山東参議院議長、新妻復興副大臣、柳文部科学審議官、廣瀬国土交通省大臣官房技術審議官(技術士)より祝辞をいただき、しばらく懇談の後、近藤副会長が閉会挨拶をされました。その後、食事会場へ移動し、6 名円卓固定席での黙食・ホテルの方によるサーブとなりました。食事はマスク会食方式で、会話する場合はマスクを着用し、異なるテーブルの方と懇談する場合は、上記の交流会会場にて行うこととされました。

食事前、都合により式典で実施出来なかった杉本技術士への特別表彰が行われ、食事中は世田谷フィルハーモニー管弦楽団有志による木管楽器等の演奏があり、食事が落ち着いた後、100 歳と 4 ヶ月を迎えられた長友技術士(機械部門)からの挨拶、近畿本部による次回全国大会の紹介がありました。

4. 関連行事

(1) 建設部会意見交換会

建設部会では、例年全国大会の日程に合わせて総会を開催し、各地域本部からの代表が集まって活動報告や意見交換会を実施しています。今年は、全国大会 2 日目の午前(午後からの記念式典の前)に、日本教育会館喜山倶楽部(千代田一ツ橋)で開催されました。

北海道本部では、傘下に専門部会を設置しておりませんが、事務局が代行して建設部会に参加しましたので、開催概要を報告します。

【議事次第・概要】

1. 建設部会 2021 年度運営方針と活動報告 (増野部会長、松岡幹事長、榎本研修委員長) ～部会員数の動向や、全国連携、活動活性化、CPD 機会提供について
2. 地域本部活動報告と質疑応答 (北海道、東北、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州各地域本部) ～各地域本部の活動状況や、部会への意見・要望・提言等について
3. 意見交換：建設部会と地域組織との連携について (司会進行・松岡幹事長)
4. 技術士制度検討委員会からの報告と質疑応答 (中川委員長) ～技術士 CPD 実績の登録と活用について、広報タスクフォースの発足とアクションプランについて
5. 技術士資格活用委員会からの報告と質疑応答 (長崎理事) ～産業界活用推進、公的活用推進、国際活用促進の 3 チームの活動状況と今後の展開について。

(2) テクニカルツアー (森特別顧問寄稿文)

今回のテクニカルツアーはコロナ禍ということもあり、定員 40 名の日帰り 1 コースのみの開催でした。(前回 65 周年記念大会時は宿泊コース含め 3 コース開催。)北海道本部から前本部長の森特別顧問が参加され、本誌にご寄稿いただきましたので以下に示します。

・見学施設 10:00～11:30 JAXA 筑波宇宙センター (茨城県つくば市千現 2 丁目 1-1)

13:45～16:00 首都圏外郭放水路管理支所 (埼玉県春日部市上金崎 720)

① JAXA 筑波宇宙センター

展示館「スペースドーム」にて、1 号車、2 号車の 2 班に分かれて館内を巡りながら、それぞれ『歴代のロケット開発』と『歴代の人工衛星開発』について説明を受けました。日本実験棟「きぼう」と宇宙ステーション補給機「こうのとり」の実物大の展示を近くで見られて良かったです。見学後、ロケット広場にて参加者全員の集合写真を撮りました。

② 首都圏外郭放水路管理支所

春日部市の中川・綾瀬川流域が土地柄水害を受け

やすいことから 13 年の歳月と総事業費 2,300 億円を投じて首都圏外郭放水路が作られました。

春日部市にある江戸川河川事務所が管轄している首都圏外郭放水路管理支所にて、首都圏外郭放水路の一部である防災地下神殿とも言われている調圧水槽と第一縦坑の中に入って見学しました。



写真-4 森 特別顧問

元々見学を考慮して作られた施設ではないので、エレベーターがなく、調圧水槽の底に降りるためには 116 段の階段を自力で降りて、そして自力で上がって戻ってこなければなりません。同行者にこのたび 100 歳と 4ヶ月を迎えられた長友技術士(機械部門)がおられたのですが、自力で階段を使って調圧水槽(防災地下神殿)を見学されたので見学者の皆さんも勇気づけられていました。防災地下神殿は生で見ると圧巻の迫力でした。

次に、命綱を付けて調圧水槽の流入口に当たる第一縦坑の中のキャットウォークを歩いて 1 周し、内部を見学しました。この縦坑の深さが約 70m もあり、スマートフォンを落とさないようにビビりながら写真を撮りました。

5. おわりに

今回、制限がある中でも全国大会に出席し、改めてリアルの良さを感じることができました。次回の技術士全国大会は 2022 年 10 月 28 日(金)～31 日(月)に奈良県で開催されます。それまでにコロナが終息することを願うばかりです。

長 井 智 典 (ながい ともり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

